

つり畳のくつ家

3F:寝室・個人室
吹き抜けを上げて、
目の前に存在する縦長の
空間は、畳が吊られる
ことで、和の空間へと
変貌する。

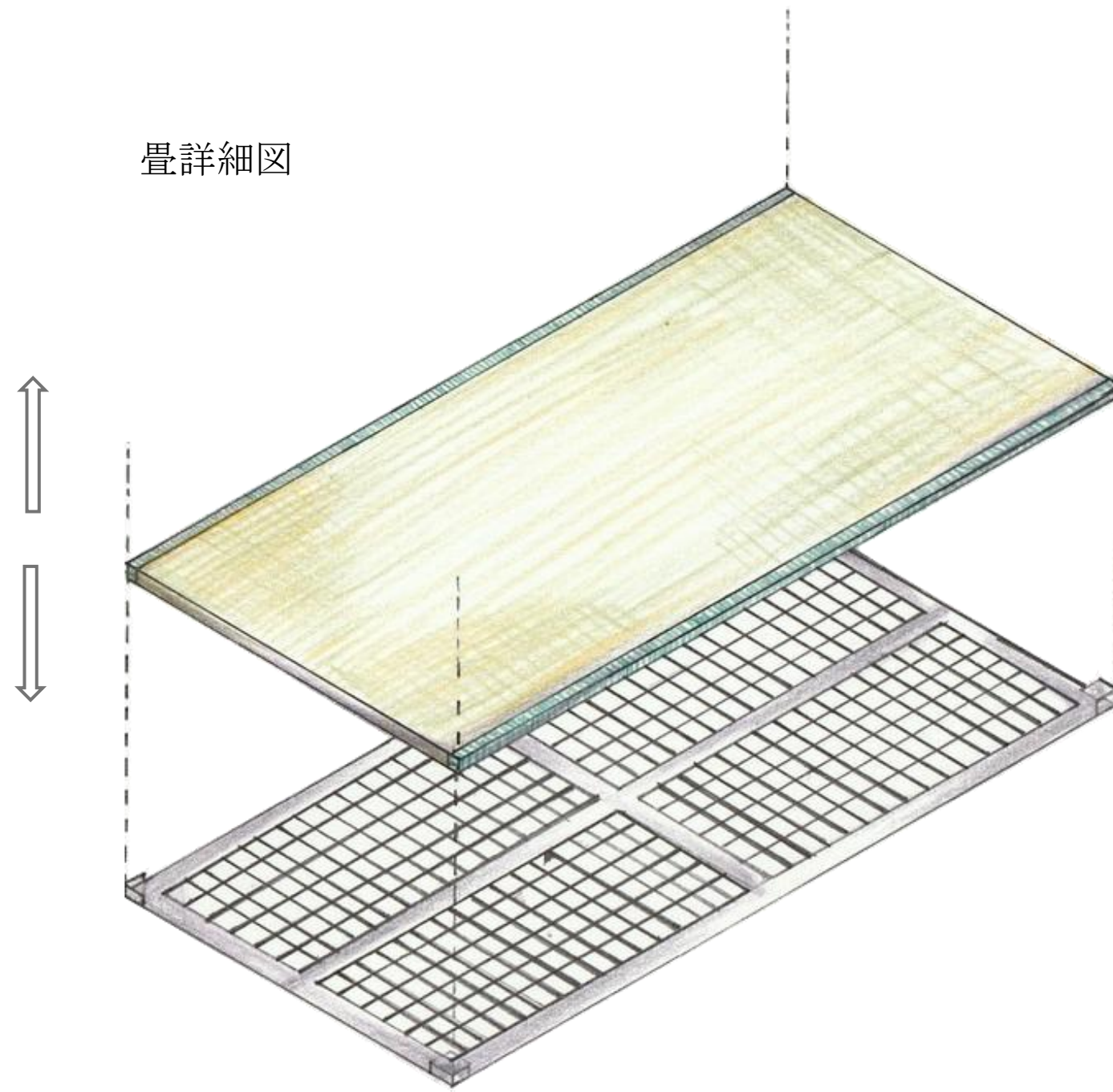
2F:LDK+水回り
掘りごたつを連想させる
リビングを囲うような
段差と、吊り畳によって
生まれる高低差が、洋室に
新しい和の風を吹かせる。

1F:店舗
道路側に開かれた緑地は、
アウトドアシューズなどの
試用に適しており、吊り畳を
用いて場所に縛られず、
靴の着脱が快適にできる。



断面パース

畳詳細図



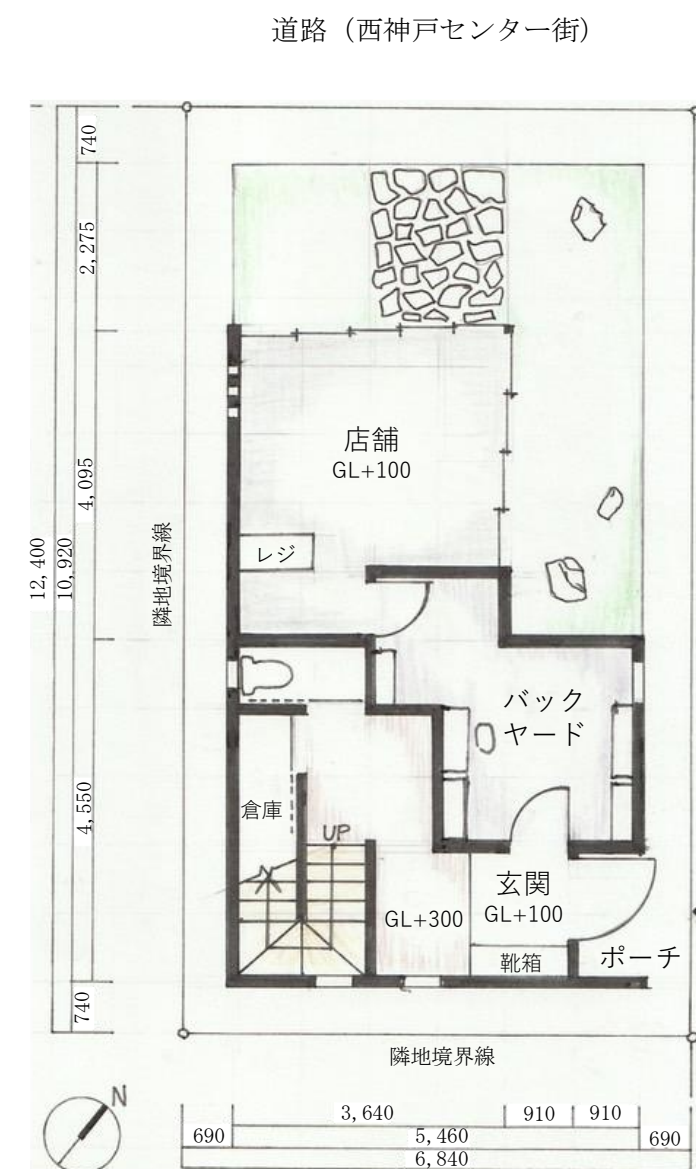
畳は上下左右に移動可能で、
幅広い用途に対応する。

レールの機構

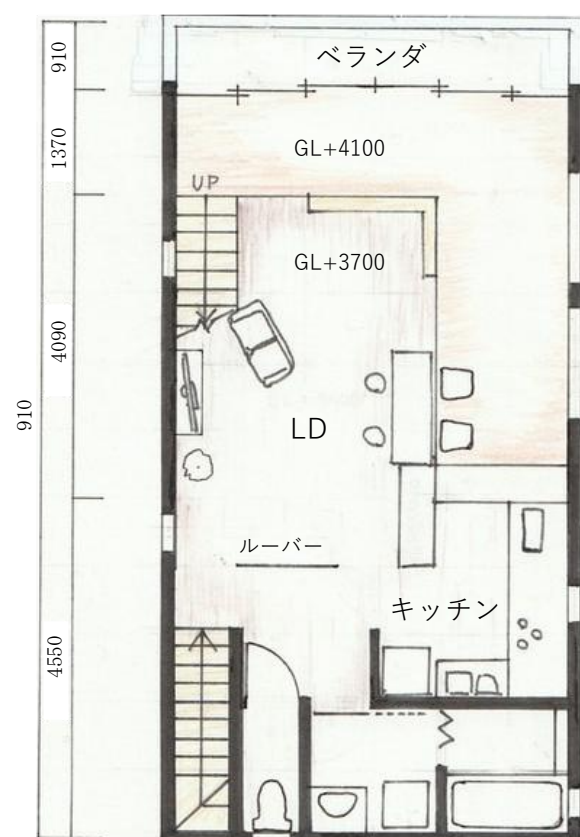


住人			
夫	42	靴屋	
妻	39	靴屋	
息子	13	中学生	
息子	7	小学生	

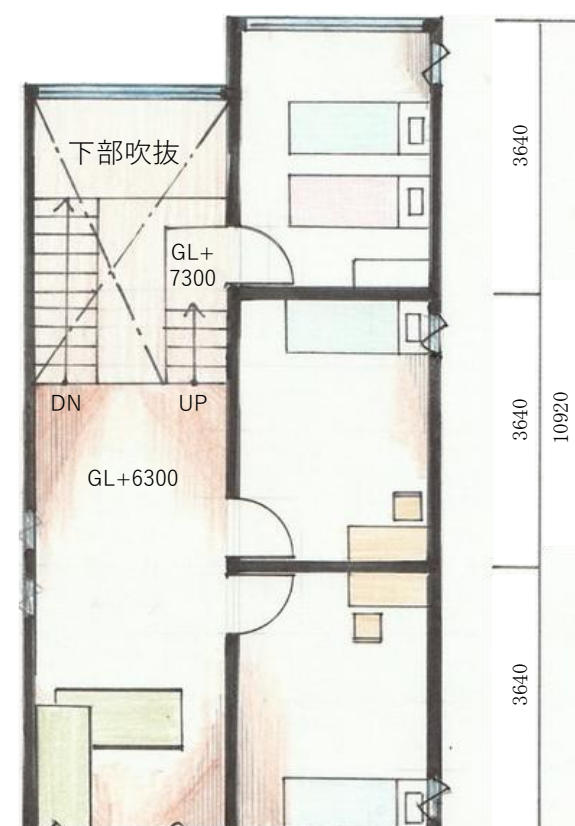
面積表	
敷地面積	84㎡
建築面積	60㎡
1階床面積	31㎡
2階床面積	54㎡
3階床面積	57㎡
延床面積	139㎡



1F平面図兼配置図
S=1/100



2F平面図
S=1/100



3F平面図
S=1/100

周辺地域・長田区の課題

長田区は1995年の阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた。その後の再開発の一環で区画整理や商業施設の建設が行われたが、人口減少と高齢化は止まらず、空き家率上昇や事業所の減少も続いている。他の課題としては、緑の面積の少なさが挙げられる。区域中の緑被率は29.3%（H17年）で市内全区中最下位である。

主な産業としては靴の生産があり、ケミカルシューズが盛んに生産されている。

対象とした敷地は、長田区の中心地にも近い西神戸センター街の端にある。この商店街では現在も数軒の店舗が営業を続けているが、空き店舗が多く、近隣の商店街とは対比的に昼間でも通行人は少ない。

敷地について

- 西神戸センター街の北東の端に位置
- 地下鉄・JR新長田駅から南東に徒歩7分
- 地下鉄駒ヶ林駅から北に徒歩3分
- 商業地域 建ぺい率：80% 容積率：400%



周辺地図 S=1/5000

出典：国土地理院基盤地図情報

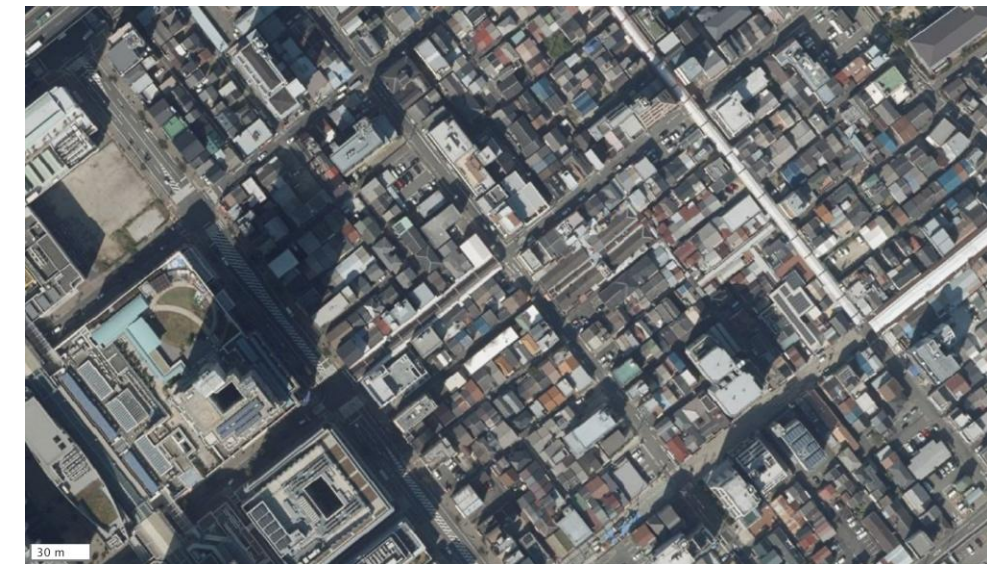
設計趣旨

西神戸センター街に地域の内外から人が集まる靴屋を作る。その目玉が天井に這わせたレールを伝って移動と高さの調節が可能な「吊る畳」だ。1階の商店街に面した店舗はセットバックしており、店前を草地として、街角に緑を提供する。営業中は吊る畳を店前に出して、訪れた客は吊る畳に腰掛けて草地上で試着したり、店主と語らったりする。

私たちが提案する新しい和室とは「吊る畳」によって構成される、場所も、高さも、出し入れも自由な空間だ。現代の暮らしにおいて床座の空間は必ずしも必要とは言えない。必要なときに簡単かつ即座に自由な配置で用意できる和室こそが、今の長田に新風を吹き込むことができると考える。



商店街の内部。上から敷地側、新長田駅側、営業中の店舗。シャッターが下りている店が多い。営業中の店舗は片手に数えるほどだった。



航空写真を見ると、建物が密集し、周辺には緑が少ないことがわかる。



A-A' 断面図 S=1/100



北立面図 S=1/100